学校番号	410

令和３年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「生物基礎　改訂版」　（啓林館）						
副教材等	センサー総合生物（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生物の体について理解することは、自分自身を知ることにつながる。テストのための暗記ではなく、「理解すること」を大切にして欲しい。
・そのために、板書を写すだけでなく、理解を助けるためのメモの書き込みを心がけること。

2　学習の到達目標

・細胞と個体の、および細胞と物質の関係性につて理解する。
・遺伝子と個体の関係性について理解する。
・健康とは、身体各部の働きのバランスがとれた状態であることを理解する。
・生態系への働きかけは、そのバランスを崩すことを理解する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自分の身体の構造や機能について関心をもち、積極的に理解を深めようとする態度を身につける。	健康のための取り組み（医療・健康食品等）や、人間による生態系への働きかけ（開発と保護）に関して、適切な判断ができる。	学習内容を多面的に理解して、演習問題の意味を読み取ることができる。	多様な生物の存在を知ることと、ＤＮＡを含む生体内の物質の働きについて知る。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述 等	学習状況の観察 ノートの記述 定期考査の結果 等	学習状況の観察 ノートの記述 演習問題解答の結果 等	学習状況の観察 ノートの記述 定期考査の結果 演習問題解答の結果 等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を配分し、評価する。				

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物の特徴(細胞・生化学)	○細胞の基本構造 ○原核細胞から多細胞の個体まで ○生命活動とエネルギー ○光合成と呼吸	○ ○	○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:生体内での化学反応について、その重要性を予感して理解しようとする姿勢を示している。 b:生体内での化学反応が、各生物で共通していると実感できている。 c: 生体内での各化学反応の経路を正しく示すことができる。 d:重要な生体物質について、その特徴を示すことができる。	・授業観察 ・提出物チェック ・定期考査
2学期	遺伝子とその働き／生物の体内環境の維持	○DNAの構造 ○DNAのタンパク合成 ○形質発現の調節 ○ホルモンによる調節 ○体液性免疫と細胞性免疫	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ 	 ○ ○ ○	a:「生きている」こととＤＮＡの関連、また生体内の化学的事象のバランスについて、関心を持ち理解しようとする。 b:学習内容と、自己の「健康」を結び付けて考えることができる。 c:ＤＮＡによるタンパク合成の流れを、正しく示すことができる。 d:おもなホルモンの名称と働き、免疫細胞の種類と働きについて示すことができる。	・授業観察 ・提出物チェック ・定期考査
3学期	生物の多様性と生態系	○植物遷移 ○バイオーム ○生態系のバランスと保全	○ ○ ○	○ ○	○ ○ 	 ○ ○	a:環境保護のためには、生態系についての理解が必要で、それを身につけようとする。 b:安定した生態系は微妙なバランスの上に成り立っていることに気づく。 c:生態系に関する表やグラフを読み取ることができる。 d:生態系に関するいくつかのトピックスについて解説できる。	・授業観察 ・提出物チェック ・実技試験

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付

けている。